

戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.24

(2015年6月16日号)

〒101-0063 東京都千代田区
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL: 03-3526-2920

FAX: 03-3526-2921

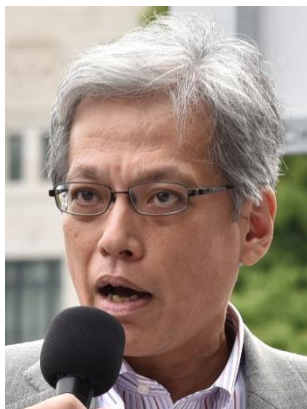
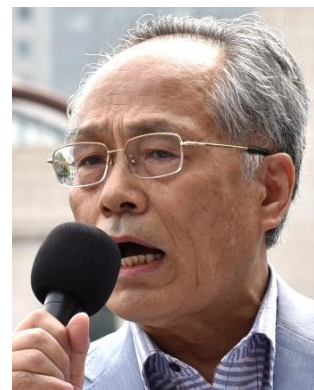
■「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」 6.14 国会包囲集会に 2 万 5 千人



2万5千人の参加者が詰めかけて戦争法案に抗議の声を上げた（国会正門前）

国会正門前のメインステージの音声国会周囲に一斉に流され、戦争法案に反対する著名人や国会議員の発言や連帯あいさつ、シュプレヒコールが行われました。

佐高信さん（評論家） 安倍首相ほどアメリカに媚びた卑屈な首相は今までいなかった。彼は日本の国民を守ると言っで色々御託を並べているが、アメリカ議会での英語での演説を見れば、本当は守る気がないのだとわかる。フリップ・ホルムという人が提唱した「戦争絶滅請け合い法案」というのをぜひ審議してもらいたい。それによれば、「戦争開始の10時間以内に、元首や首相を最前線に立たせること」とある。安倍首相は、戦地では役に立たないだろうが、まずは彼から戦地に行くべきだ。この「戦争絶滅請け合い法案」を対案として提出し、徹底的に審議したらいいのではないか。



山口二郎さん（法政大教授） 今回、憲法学者が安保法制を違憲だと言ったことが大きな話題となった。これこそ学者の本来の仕事だ。自民党の高村副総裁は、「憲法学者は憲法の字面に拘泥する」などと言ったが、憲法学者が憲法の条文にこだわるのは、数学者が数式にこだわるのと全く同じだ。55年前、この場所で何十万という市民が国会を包囲し、安倍首相の祖父である岸信介を退陣に追い込んだ。そのことが日本の平和を守った。もしあの時、憲法が改正されて自衛隊が単なる軍隊になっていたら、間違いなく日本はベトナム戦争でたくさんの人

を殺し、殺される歴史になっていたはずだ。憲法を守る市民の力が、日本を戦争に巻き込まれないようにしてきた。これが歴史の事実だ。我々が 55 年前の先輩の思いを引き継いで、安倍晋三を振り返りにしようではないか。

鳥越俊太郎さん（ジャーナリスト・辺野古基金共同代表） 私は昭和 15 年生まれなので、戦後の歴史はつぶさに見てきたが、安倍政権ほどひどい政権は今までなかった。これほど民意を無視して独裁に走る政権は自民党といえどもなかった。これには過半数の議席を与えてしまった私たちの責任もある。国民の声を無視して進むのは独裁以外の何物でもない。国会で多数を取れば何をやってもいいと勘違いしている政権の暴走を止めるには、国会を何重にも包囲して安倍首相が耳をふさいでも聞こえるくらい、大きな反対の声を上げるしかない。



石坂啓さん（マンガ家） 私たちにとっての戦場は、どこか遠い海峡のことではない。今、この国会前だ。私たちが倒すべき相手は戦争法案であり、助けなければいけないのは、瀕死の状態である憲法 9 条だ。絶対に安倍首相と戦争法案を許すわけにはいかない。



古今亭菊千代さん（落語家） 我が軍などと言った安倍首相が、なぜ「戦争法案」という言葉に文句をつけるのか。多国籍軍は紛争地で多くの命を奪っている。それに自衛隊が参加するようなことがあってはならない。全国民で反対していきたい。落語家からのお願いです。



鎌田慧さん（ルポライター） 私たちの力で政治を変えていく、皆さんもそういう思いで今日集まっていることと思う。安倍政権は少数派いじめを行っているが、少数派の人権や命を守るのが政治家であり、それを保証するのが民主主義国家の役割だ。戦争に加担しない、自衛隊を海外に送らない、そういう思いで闘いぬき亡くなった人たちがたくさんいる。その人たちの魂と共に、私は今この国会前に立っている。今、孤立しているのは私たちではなく、安倍政権だ。戦争に反対する声は多数になった。このまま声を上げ続けて戦争法案を廃案にさせる闘いを、魂を込めて頑張っていきたい。

長妻昭さん（民主党代表代行） 自民党は砂川判決を持ち出して、集団的自衛権を合憲であると言っているが、どこをどう読んでも我が国が集団的自衛権を認めているとは読めない。この判決を前例として持ち出すことは、将来の日本に禍根を残すので撤回させないといけない。皆さんと一緒に、この安保法制を差し戻させ、日本がおかしくならないように闘っていきたい。



吉田忠智さん（社民党党首） この 70 年間、アメリカからたびたび不当な要求を押し付けられても、それを跳ね除けて平和国家を維持して来られたのは、憲法を守ってきた私たち運動のおかげだ。憲法審査会の長谷部さんなどをはじめ、220 人以上の憲法学者が戦争法案は 9 条に違反すると言っており、合憲だという学者はわずか 3 人だけだ。憲法に違反する戦争法案の廃案を強く求めていきたい。

志位和夫さん（共産党委員長） 自衛隊を戦地に送り、殺し殺される。そんなことは絶対に許されない。集団的自衛権について、色々な議論がされているが、問題の核心は無法な戦争に参戦してしまうことだ。アメリカが無法な戦争を始めても、日本政府はそれに反対できない。戦後最悪の戦争法案は、皆さんの力で、廃案に追い込みましょう。



玉城愛さん（名桜大学3年生、「島ぐるみ会議・名護」共同代表） 一昨日、沖縄から東京に来た。街を歩いて

いても戦闘機の音がしないので、あれは戦場で聞こえる音なのだと深く実感した。小学生の頃、従妹の通う沖縄国際大学に米軍のヘリが墜落し、家族・親類とても心配して緊張したことを私は忘れない。辺

野古では暴力を伴った新基地建設が強行されている。人の命を奪いたくない、人の命を奪う手伝いをしたくないという思いで私はこれに反対している。今、戦争法案が成立したら、戦争に行くのは私や皆さんの恋人や子ども、孫だ。私はそういう状況には絶対したくない。私たち若い人も含めて、一緒に頑張らしましょう。



「戦争法案今すぐ廃案！」のシュプレヒコールを上げた（国会正門前）

■戦争法案反対 国会前連続座り込み行動



抗議の座り込み（6月15日、衆議院第二議員会館前）

また、衆議院安保特別委員会の傍聴報告なども行われました。国会前に集まった参加者は、こうした審議の経過の報告を受け、民主党、社民党、共産党の国会議員の決意表明、さらに参加者がそれぞれの思いをマイクで訴え、安倍政権の暴走に怒りを露わし、シュプレヒコールを繰り返しました。

6月15日から、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、戦争法案の成立阻止を訴えるため、「戦争法案反対 国会前連続座り込み行動」を開始しました。初日となった6月15日、2日目の16日ともに、延べ1000人が、衆議院議員第二会館前から参議院議員会館前で座り込みと抗議集会を行いました。

参加者は、「戦争法案廃案」の熱い思いで10時から17時まで、暑さに負けず座り込み、抗議のシュプレヒコールを上げました。



抗議集会（6月16日、衆議院第二議員会館前）

■「戦争法案」を葬ろう 6.11 院内集会



冒頭で審議の報告を行った辻元清美議員（衆院安保特別委員）

立憲フォーラムと戦争をさせない1000人委員会は6月11日、『戦争法案』を葬ろう 6.11 院内集会」を参議院議員会館で開催しました。

冒頭で辻元清美議員（衆院安保特別委員）が挨拶を行い、「戦争法案の違憲性がますます明らかになってきている。皆さん、地元の議員の事務所におしかけ、戦争法案の廃止を直接訴えてほしい。事務所におしかけるのが一番効果的だ」と訴えました。

集会には、立憲フォーラムの吉田忠智、社民党党首ら国会議員も多数参加し、戦争法案の成立阻止のために国会審議を全力で闘う決意を表明しました。また、憲法学者の小澤隆一さんと1000人委員会呼びかけ人で軍事評論家の前田哲男さんが講演し、国会で審議されている内容について詳しい分析を行いました。

小澤隆一さん（憲法学者） 本日の時点で、220人もの憲法学者が声明の呼びかけ人となった。異なる意見を持つ人たちがこれだけ結集したことはとても大きい。声明文では、戦争法案に関するいくつかの問題を指摘している。例えば、存立危機事態の時に公共団体や指定公共機関が動員されるという、とんでもない仕組みが作られようとしていること。また、武器を守るために武器を使うという「武力行使」が、今回の法案には隠されていることなどだ。

政府は、集団的自衛権の根拠として砂川判決を持ち出してきたが、自分の都合のよいところだけをつまみ食いしているにすぎない。砂川判決は確かに自衛権については言及しているが、その部分に「先例」としての意義はない。砂川判決とは、「憲法9条2項は他国には関係ない」とし、そのうえで「統治行為論」によって判決を避けたものだ。この部分が「先例」であり、それ以外は「傍論」である。日本の自衛隊が米軍に対してどう振る舞うかは、砂川判決とは関係がない。

また政府は、72年の政府見解を持ち出して、それと同様の論理が維持されている以上違憲ではないと言っている。しかし、政府はその論理を部分的にしか踏襲していない。今の法制局は、政府と一緒にころころと見解を変えている。法制局は法の番人であるから、ころころと見解を変えてしまっては困る。国民はこのことについてもっと声を上げるべきだ。



小澤隆一さん



日米ガイドラインの冊子を手に、戦争法案との関係性を説明する前田哲男さん

前田哲男さん（軍事評論家） 戦争法案と日米ガイドラインの整備は、相互補完的に進んでいる。ガイドラインは集団的自衛権行使の指針であり、平易な言葉で書かれた軍人に対するマニュアルでもある。そのため、これを読めば難解な法案の意味と安倍政権の意図が見えてくる。安倍さんが機雷掃海にこだわるのは、ガイドラインによりアメリカに要請されているからだ。新法である「国際平和支援法」の第8条には、戦闘が始まってもすでに作業に着手した現場には留まってよいと書いてある。これもガイドラインに合わせて作られたものだ。

大事なことは、国会の関与しない行政協定にすぎないガイドラインが、国際条約に匹敵するほどの拘束力を持たされているということだ。周辺事態法は、第二次ガイドラインの実効性を担保するために作られた。この関係は、今回の第三次ガイドラインと安保法案の間にも成り立つ。しかし、もし自衛隊法 95 条が改正されなければ、ガイドラインに書かれた新規の事態における協力は実行できない。案が通らなければ、ガイドラインは絵に描いた餅になる。そのために、夏までにこの安保法案を廃案にする必要がある。今、我々に有利な風が吹き始めたように思うが、まだ勢力としては弱い。皆さん、共に頑張っていきましょう。

■6.11 戦争法案反対 国会前連続集会（第 4 回）

6 月 11 日、戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会は、衆議院本会議で審議されている戦争関連法案の成立阻止をめざし、衆議院第二議員会館前で「戦争法案反対 国会前連続集会（第 4 回）」を開きました。第 3 回を上回る 1700 人の市民らが参加し、国会に向かって抗議の声を上げました。



1700 人の参加者が詰めかけて戦争法案に抗議（衆院第二議員会館前）

民主党の大串博志議員（衆院安保特別委員）は、「私は昨日の委員会で、『憲法学者がこの法案を憲法違反だと言うのは当たり前だ。大事なのは、それを支えて平和を愛する多くの日本国民がいるということではないか』と大臣に言った。大臣の答弁は本当にしどろもどろだ。安倍総理にいたっては、指名してもいないのに前に出てきて関係のないことをしゃべる。総理は国民にわかりやすく示していくと言ったが、全くその態度は見られない。そんな独りよがりですでに私たちを戦争に引き込んでしまうこの法案を絶対に廃案に追い込む。そのために全力で頑張ることをお誓い申し上げます」と決意を訴えました。



プラカードを掲げて「戦争法案を廃案にするぞ！」とシュプレヒコール

また、1000 人委員会事務局長の内田雅敏さん（弁護士）は、「政府は集団的自衛権の根拠として砂川判決を持ち出してきた。しかし、あの判決は自衛隊が合憲か否かさえ判断しておらず、ましてや集団的自衛権については全く判断していないものだ。皆さん、こういうことを広く訴え、引き続き戦争法案を追撃していきましょう」とアピールしました。

■6.9 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は、6月9日夕方、都内の主な駅頭9ヵ所（新橋駅前、有楽町駅イトシア前、御茶ノ水駅前、巣鴨駅前、上野駅広小路口、池袋駅東口、新宿駅東口、新宿駅南口、渋谷駅ハチ公前口）で一斉街宣行動を行いました。

この行動には、合計262人が参加して、街を歩く市民に戦争法案反対を呼びかけました。



戦争法案反対の声を市民に訴えた（有楽町イトシア前）

駅利用者や市民の反応はとても良く、約1時間半で用意した3000枚以上のチラシを全て配布しました。

街宣行動に参加した市民の一人は、「国会での戦争法案審議に対する関心の高さと、戦争法案に反対する世論を反映する反響で、大きな手応えを感じた。これから国会論戦の山場に向けてさらに多くの市民に戦争法案廃案を呼びかけていきたい」と意気込みを語りました。



6.14、6.24 国会包囲集会のチラシを配布

■みなさんからのメッセージ

— 70年続いた平和をこのまま子孫に残すことが私達大人の責任だと思っています。あきらめることなくがんばっていききたいと思います。よろしくお願いします。

（福岡県・女性）

— 60年安保で命を落とした樺美智子さんの言葉、「あの人たち（労働者）には生活がある。かわいそうよ。だから学生がやるのよ。だれかがしなけりゃ」に対し、今はブラック企業と非正規雇用で苦しむ若年層より、戦争体験を直接聞いている、身をもって戦後を知っている団塊世代が頑張ることが必要なのではないのでしょうか。



「戦争法案反対！」のシュプレヒコールを上げる

参加者（6.11 国会前連続集会にて）

■集会・活動スケジュール

6月17日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページまたは、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

- 6月 15日(月)～24日(水) 10時00分～17時00分 (20日(土), 21日(日) 除く)
戦争法案反対・国会前連続座り込み行動
 場 所：衆議院第2議員会館前
 ※天候により中止・変更等もあり
- 6月 18日(木) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 6.18 院内集会 ※入場無料、入館証を配布
 場 所：衆議院第1議員会館地下1階 大会議室
 講 師：前田哲男さん(軍事評論家)
 主 催：立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会
- 6月 18日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第5回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 6月 23日(火) 18時30分～ **戦争への道を許さない 6.23 東京集会**
 場 所：日比谷野外音楽堂 ※集会後デモ
 主 催：戦争をさせない東京1000人委員会
- 6月 24日(水) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 6.24 集会
 場 所：星陵会館ホール(地下鉄国会議事堂前・永田町下車)
 講 師：半田滋さん(東京新聞論説委員・編集委員)ほか
 主 催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム
- 6月 24日(水) 18時30分～20時00分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」
6.24 国会包囲行動
 場 所：国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 6月 25日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第6回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 2日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第7回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 9日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第8回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 14日(火) 18時30分～ **戦争法案反対！7.14 日比谷集会(仮称)**
 場 所：日比谷野外音楽堂
- 7月 16日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第9回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 23日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第10回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前
- 7月 26日(日) 14時00分～15時30分 「とめよう！戦争法案 集まろう！国会へ」
7.26 国会包囲行動
 場 所：国会議事堂周辺 ※1000人委員会は議員会館側
- 7月 27日(月)～ 国会情勢に対応し、座り込み行動を検討
- 7月 30日(木) 18時30分～ **戦争法案反対国会前集会(連続行動第11回)**
 場 所：衆議院第2議員会館前

「戦争をさせない全国署名2015」 第2次締め切り：6月30日

「戦争をさせない全国署名2015」の第2次集約締め切りは6月30日(火)です。
 第2次集約分は7月中に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。